

こころ育てる絵本との出会い

マクちゃん通信

2011 12 - 2012 1 vol.

11

絵本原画展

川端 誠

特集「ちえ」の絵本



川端 誠



すがすがしくも華やかに
絵本職人・川端誠さんが描くお正月。
守り伝えたい日本の伝統文化が
ここにあります。

川端 誠(かわばた まこと)プロフィール

1952年新潟県高田市(現・上越市)生まれ。絵本作家。武蔵野美術短期大学商業デザイン科卒業。1982年にデビュー作の『鳥の島』(BL出版)で第5回絵本にっぽん賞を受賞。以来「落語絵本」シリーズ(クレヨンハウス)、『びかびかぶつん』『森の木』『お化け』シリーズ、『野菜忍者』シリーズ、『十二支のお節料理』『うききばちです』(BL出版)『りんごです』『バナナです』『いちごです』(文化出版局)など、作品、シリーズごとに多彩な世界を展開している。

制作の裏話などのトークをはさんだ、自作絵本の開き読み「絵本ライブ」を、講演会とセットにして、各地で行う。

絵本原画展開催

平成23年12月1日(木)～平成24年1月29日(日)



『ひとめあがり』(クレヨンハウス)



『十二支のお節料理』(BL出版)

原画展示絵本

ギャラリーでは、新しい年を祝うめでたい『十二支のお節料理』

人気落語シリーズから『ひとめあがり』の絵本原画をご紹介します。

川端誠先生に インタビュー



絵本作家になられたきっかけは？

イラストレーターを目指して勉強中にレオ・レオニの『フレデリック』に出会ったのがきっかけです。学校からの帰りに『フレデリック』と『スイミー』を買って、その夜に絵本作家を目指すことを決めました。美術の専門学校につとめていましたが、三十歳の時『鳥の島』が出版され、それ以後絵本作家です。

画材は何を使っていらっしゃるのですか？

主にアクリル絵具ですが、『うえきばちです』『地球をほる』は、アクリルガッシュ、『サボテン』シリーズは、カラーインクです。『鳥の島』『森の木』『びかびかぶつん』は、自家製の紙ねんどを盛り上げて着色はアクリル絵具です。『十二支のお節料理』は黒線がゴム版画で、色はカラーペンです。水彩絵具や油絵具は使ったことがありません。



『地球をほる』
(BL出版2011年)

今回、絵本原画展を行う絵本の制作秘話や思い出を教えてください。

『十二支のお節料理』の制作過程をスライドでご覧にされると皆さん手間の多さに驚かれます。意外と版画を彫ってカラーペン着色の方が楽なのです。絵具での作品はイメージに合った色作りが厄介なのです。『ひとめあがり』は正月飾です。正月物をたくさん手がけていますので、登場する正月飾りは僕の得意分野です。お飾り物は適材適所におさまっていると思います。

今まで手がけられた絵本の中で、一番印象深い絵本を教えてください。

『鳥の島』です。デビュー作には作家のすべてがすでに表れていると言われますが、本当にそう思います。自分では『鳥の島』以上の作品は作れないと思っています。



『鳥の島』
(BL出版1982年)

絵本を通じてお伝えになりたいことは？
それはもう僕の価値観です。

絵本をお作りになるときのこだわりは？
文の「二」句、絵柄のひとつひとつ、すべて納得の上で作ること。気付かないことは出来ませんが、気付いたことはすべてやります。ですから原画が完成すると、達成感ではなく虚脱感しかありません。

今後どのような絵本を描いていかれますか？

一番近いところでは「山岳絵本」を考えています。「落語絵本」シリーズも「野菜忍者」シリーズもネタがたくさんあります。「風来坊」シリーズも続きがあるので、そのうち挑戦します。

ご趣味についてお聞かせください。

コレクションです。ピア缶、ピアコースター、ジョッキ、割り箸、丸い石、面白い石、山岳の頂上の石...など。機会が少ないですが、本格的な木工もやります。落語も趣味で原画制作中のBGMは完璧に落語のCDです。CDは全部で800枚以上持っています。

好きな言葉を教えてください。

「はじめればおわる」(自作)です。

ファンの皆さんへメッセージをお願いします。

僕の言いたいことは全部絵本につまっています。そしてこれからも射水市大島絵本館をよろしく。

川端誠先生、ありがとうございました。



『ひとめあがり』
(クレヨンハウス)

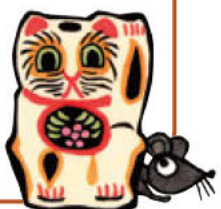
川端 誠先生サイン入りの 絵本を3名様にプレゼント

応募方法 氏名、住所、電話番号をご明記のうえ、ハガキでご応募ください。
あて先 〒939-0283 射水市鳥取50 射水市大島絵本館
川端誠サイン本プレゼント係
締め切り 平成24年1月10日 消印有効
※発表は発送をもって代えさせていただきます。

川端 誠 絵本作家トーク ～絵本とともに旅をして～

日時 平成24年1月22日(日)
11:00～ 絵本ライブ
12:00～ サイン会・版画実演
14:00～ 絵本作家トーク
15:30～ サイン会・版画実演

場所 射水市大島絵本館シアター&
パフォーマンスホール





はた ともえ
島 智慧
射水市大島絵本館 指導員

特集 / 「ちえ」の絵本

勉強ができるのと頭がいいのは違うんだ

小学生のころ通知表をもらってはお互いにそういつてはやしあったものだ。負け犬の遠吠えである。やつかみでもある。幼くとも学生さん。「頭のよさ」は永遠の命題なのだ。成績がいいにこしたことはないが、しかしみな異口同音にこういった。「頭がいい≠学力」というのが共通認識としてあったのは間違いない。

*

では「頭がいい」とはどういうことなのか？ 親から「智慧」と名を与えられた私。この問題は人一倍気になる。「頭のよさ」の指標として子どものころ囁き合っていたのが「なぞなぞが得意」ということだった。「クイズ」ではない「なぞなぞ」だ。これは同じようにいて大きく異なる。つまり彼らは「ものしり」（知識が豊富なこと）ではなく、「なぞとき」（隠された法則を発見する知恵）に軍配を上げた。答えを知っていることではなく、答えを導く力がある者こそ「知恵者」。知らず子どもたちは「なぞなぞ」を支持することで、詰め込み教育に対する反逆の狼煙をあげたわけだ。

*

「なぞとき」のいいところは、たねやしかけが明かされた瞬間、すんと腑に落ちることだ。答えは意外に簡単などころ

にある。それを見つけ出すのが「知恵」だ。これは教科書や事典の中には見つからない。絵本や昔話の中にたくさん含まれている。「三枚のお札」を渡した和尚は山姥を退治するため餅に化けさせ、アメノウズメと神々は踊りはやして「天岩戸」を開かせた。「姥捨て山」の母はお婆ちゃんを知恵袋で皆の命を救い、「十二支」になったねずみは牛の背を借り一等になった。わかりやすく痛快。納得できて楽しみながら見つけれられる。それが絵本の「知恵」だ。

*

「知識」の伝達は容易だが「知恵」はその限りではない。ひらめきには経験、頭をやわらかくするにはストレッチが必要だ。とんちの効いたお話は目から鱗の着眼点を与えてくれるだろう。あそび絵本は脳みそのしわをふやしてくれるだろう。そして「なぞ」に気付いたその瞬間、脳みそに走る衝撃は「頭をよく」してくれるのだ。そこで再びあの言葉を茶目つけたっぷり口にしよう。

負け犬の遠吠えではない。やつかみでもない。自信に満ちた「知恵者」がそこにいる。

私のおすすめ絵本

『ABC3D ポップアップ見本帖』

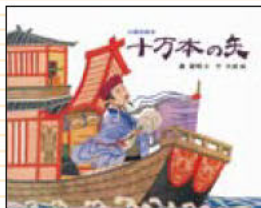
マリオン・バタイユ／作・絵
大日本絵画



ABCのしかけ絵本。単純だからアイデア勝負。「W」を見れば膝を叩かずにいられない。

『三国志絵本 十万本の矢』

唐 亜明／作
于 大武／絵
岩波書店



3日で10万本の矢を手に入れる。不可能を可能にする天才軍師の秘策とは!?

『さんまいのおふだ』

水沢 謙一／作
梶山 俊夫／絵
福音館書店



柔よく剛を制す。これこそ「知恵」の真髄。おばばは食べてもおもしろさんは食べやしない。



『視覚ミステリーえほん』
ウォルター・ウィック／作・絵
林田 康一／訳
あすなろ書房

目が脳みそが君をだます。偽りの中から真実を見抜け!



『落語絵本2 まんじゅうこわい』
川端誠／作・絵
クレヨンハウス
言葉どおりに受け取ってはいけない。
一度読んだら使いたくなる決め台詞。



『あたらしいみかんのむきかた』
岡田 好弘／作 神谷 圭介／文・絵
小学館
みかんをむいて動物をつくる!?従来の工作概念を打ち崩す一冊。今年の冬はこれで決まり!



『あたらしいみかんのむきかた2』
岡田好弘／作 神谷圭介／文・絵
小学館
前作25種に引き続き、新作21種のむき方大放出。
指先は第二の脳。むいてむいてむきまくれ!